



被災地の新しい1ページに出会う

心を向ける、体を運ぶ

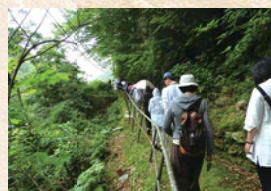
東日本大震災の津波の被害に遭った沿岸部は、未だに津波の爪痕を残す光景が広がっています。時間が経つにつれて、テレビや新聞で現地の様子が取り上げられることも少なくなり、遠く離れた関西の地では復興がどれだけ進んでいるか、現地の人は今どのように過ごしているのかわからない人も多いのではないのでしょうか。

心を向け、体を運び、新しい出会いに溢れたちょっと変わった旅をしませんか？



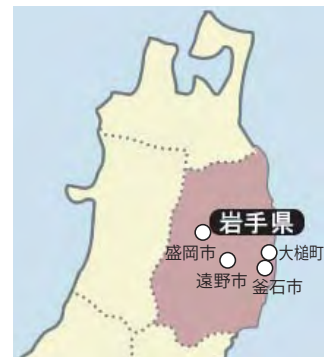
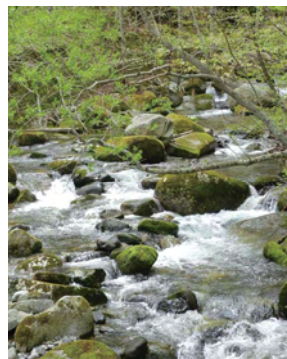
現地コーディネーターの伊藤聡です

3.11東日本大震災発生後より全国のたくさんの方々に支えられながら復興の道を歩んでいます。1年が経過し、ご恩返しは何かと考えたとき、自らが立ち上がる姿を発信することが一番と思い「三陸ひとつなぎ自然学校」を立ち上げ、地域の魅力を発信する活動へ繋げていきたいと考えております。三陸の魅力は海・山・川等の豊富な自然環境ですが、そこで暮らす三陸の人々こそ一番の魅力と思っています。魅力溢れる三陸人にぜひ会いに来てください！



被災地と エコツーリズム

エコツーリズムを通じた復興の取り組みは、新聞などでも取り上げられるなど社会的に注目されています。語り部などのプログラムを通じたエコツーリズムによる復興の取組が広がっています。



被災地が今どのような状況を見て、被災者の方から被災したときの話を聞き、被災地の「今」を知ることができます。

見て、聴いて 被災地の今を知る

被災地ではまだまだたくさんボランティアの助けが必要で、清掃や農業、漁業のボランティア作業をさせてもらいます。漁業や農業のお手伝いなど、季節や時期によってメニューは異なります。

被災地復興の お手伝いを させてもらう



現地の観光・地域資源にふれます。自然が豊かで歴史あるまちの魅力を知ることができます。

地域の 魅力を知る



参加者の声

- ・悲しみを乗り越えて、力強く生きる力を感じた。ボランティアなんておこがましいと思いましたが、被災者の方の声をきいて、伝えることはその第一歩であることが分かった。
- ・実際に自分の目で、被災地を見て、現地の方の生の声を聞くことで、自分にできることを継続して行きたいと強く思った。
- ・被災地に足を置くことで、ここで亡くなられた方に対する思いがこみ上げてきた。ボランティアは、手伝いをするだけでなくボランティアではないということを感じた。
- ・実際にその現場に行くことで、やっとありのままの姿を見れたと思った。そうすると、切り取られた情報ではなく現実の風景として五感で感じられた。被災された方々は、同じ人間同士なんだと改めて感じ、人と人とのふつうのかかわり合いが出来ることが大切だと思った。

◆現地でのスケジュール[2012年6月実施例] (被災地のエコツーリズム体験ツアー)

1日目	昼 現地に到着
	午後 現地の視察 鶴住居地区など
2日目	1日 ボランティア作業(農作業のお手伝い、清掃作業など)
	夕方 バスで仮設商店街へおでかけ
3日目	夜 伝統芸能「虎舞」を堪能
	午前 日本最初の洋式高炉「橋野高炉」見学
	山の地形を利用した水力発電施設の見学
	昼 釜石駅周辺で海鮮などおいしいごはんを食べる
	昼食後、お土産を買って現地を出発

あおぞら財団では、ツアーの企画・実施や、情報交流などを通じて被災地のエコツーリズム支援を一緒に進めてくれる仲間を募集しています。

情報発信や実際にツアーを企画するなど、それぞれができることから一緒に被災地支援の新しい環を広げませんか？

◆被災地ツアーの企画、情報に関するお問い合わせ

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885 MAIL: webmaster@aozora.or.jp WEB: http://aozora.or.jp/